

“ おもしろくて ためになる 学びの共有 ”

日本教育カウンセラー協会秋田県支部機関誌

教育カウンセラー あきた

第4号

2004年(平成16年)3月13日発行

小学校のキャリア教育

秋田県支部長 水戸谷貞夫

今年の1月28日に、「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」の「報告書」が発表され、小学生を対象とする勤労観・職業観を育てる教育が導入されることが話題となっている。

子どもたちの成長・発達について、身体的には早熟傾向にあるにもかかわらず精神的・社会的自立が遅れる傾向にあること、最近では、遊びや消費活動、情報活用能力等における早熟化が進む反面、生産活動や社会性等に未熟さが見られるなど、発達上の課題が顕著になっていることが指摘されている、ことが述べられている。

この「報告書」の中で、小学校・中学校・高等学校指導要領におけるキャリア教育関連事項として、ねらいや内容、配慮事項などについて詳述されている。例えば、小学校の場合には、特別活動の学級活動、児童会活動、学校行事を取り上げ、道徳では、働くことの大切さを知り、進んで働くことがあげられ、総合的な学習の時間では、学び方やものの考え方を身に付け、自己の生き方を考えることなどが述べられている。各教科では、学習課題や活動の選択、自らの将来について考えたりする機会の設定を

はじめ、多くの項目が例示されている。

キャリア教育の基本方向と推進方策では、「キャリア教育においては、働くことの意義を子どもたちが総合的

に理解できるようにすることが大切である。また、小学校段階から、発達段階に応じて社会の仕組みや自己と社会との関係を理解できるようにするとともに、将来の精神的・経済的自立を促す取り組みが必要である。」などが述べられていることにも着目したいと考えている。

今後、小学校におけるキャリア教育が、どのように推進されるかについて、その援助や指導に当たる者としての研究が望まれるところでもある。



「進路指導」から「キャリア教育」へ

職業指導というイメージの
「進路指導」



生き方、在り方教育としての
「キャリア教育」

人間関係形成、情報活用、将来設計、意志決定

キャリアとは何か

キャリア = 職業



人生を構成する一連の出来事
(スーパー、1976)

キャリア = キャリア



平成16年度事業予定

平成15年4月に「日本教育カウンセラー協会秋田県支部」として発足した本会は、平成16年4月より、「秋田県教育カウンセラー協会」と名称が変更になります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

平成16年度事業予定は次のとおりです。

< 教育カウンセリング研修会 >

- ・日時 6月20日(日) 10:00 ~ 16:00
- ・会場 未定
- ・テーマ

関係づくりに生かすSST

(講師; 曾山和彦)

自己発見のSGE

(講師; 阿部千春)

ブリーフセラピーの基礎

(講師; 高橋さゆり)

- ・参加費 会員 500円

一緒に学びましょう!!



< 教育カウンセリング公開講演会 >

- ・日時 8月21日(土) 13:30 ~ 16:00
- ・会場 秋田市千秋会館
- ・テーマ
「子どもの心へのアプローチ ~ 効果的な学校カウンセリングの展開」
(講師; 福島脩美先生 目白大学教授)
- ・参加費 会員 1,000円

< 教育カウンセラー養成講座 >

- ・日時 10月30日(土), 31(日),
11月7日(日) 9:00 ~ 16:30
- ・会場 秋田市千秋会館
- ・講師
30日; 苅間澤勇人先生(上級教育カウンセラー)他, 河村茂雄先生(都留文科大学教授)
31日; 諸富祥彦先生(千葉大学助教授), 岡田弘先生(聖徳栄養短期大学助教授)
7日; 國分康孝先生(成徳大学教授), 國分久子先生(青森明の星短期大学客員教授)
- ・参加費 35,000円

國分康孝先生の講義は
「教師のリーダーシップ」です!!



< 総会, 懇親会 >

- ・日時 3月12日(土) 17:00 ~ 19:00
- ・会場 秋田市千秋会館

< 秋田Q-U学習会 >

* 毎月1回, 秋田市教育研究所にて開催。

秋田県支部もうすぐ1歳！！

秋田県支部事務局員 小原 恵子

日増しに春の気配を感じるようになり、支部が立ち上がって、もうすぐ1年が経とうとしていることを実感します。この1年を振り返ると色々な思いがめぐります。

4月の教育カウンセラー養成講座に始まり、教育カウンセリング研修会、教育カウンセリング公開講演会、秋田Q-U学習会、そして今年度最後となる総会と活動して参りました。初年度ということもあり、作業手順もよく分からない手探りの状態で、なんとか役割をこなす日々だったように思います。そんな精一杯な感じでしたので、1日1日はあっという間に過ぎていきましたが、その分様々な経験ができ、少し成長できたような、うれしい気分です。

公開講演会では、講師の会沢先生との連絡調整係や講演会当日は講師紹介を担当させていただきました。連絡調整係は、先生からしますと、秋田県支部の窓口と言える役割でしたので、秋田に良いイメージを持っていただけるよう頑張りました。主にメールでのやりとりでしたが、1つの文章を作成するのにも結構な時間をかけた気がします。パソコンとにらめっこして目がチカチカしたのを覚えています。

この1年、支部のメンバーとしての役割1つ1つに重みを感じ、気を引き締めて活動して参りましたが、小さな作業にも、そこに秋田のいいカラーが出せたらと試行錯誤することは楽しくもありました。その思いはメンバー共通のようで、各自担当した役割にはきめ細かな配慮が見られました。それぞれのマイベストで構成した活動でしたので、きっと秋田らしい温かい空気を会場につくっていたのではと自負しています。

私がこれまで役割をなんとか果たしてこられたのは、メンバーと会員のみなさんの支えがあってこそでした。心から感謝しております。来年度もまた、今年度以上に、それぞれの持ち味を生かし、メンバー一丸となってパワフルに活動を進めていきたいと思っております。



教育カウンセリングトピック

～『ワンダウン・ポジション』～

・「ワンダウン・ポジション」とは、主にブリーフセラピー（短期療法）で用いられる概念で、セラピストがクライアントより「低い姿勢で臨む」ことを意味します。何故、このようなことが大切なのでしょう？

・著名なブリーフセラピー指導者であるスコット・ミラーは、セラピストの心構えとして、以下のような「教え」を説いています。

1. あなたにはクライアントを助けることはできない。
2. あなたにはクライアントを理解することはできない。
3. あなたにはクライアントに提供するものが何もない。

これを読んで、どう感じました？「これじゃあ、何もできないと言われているのと同じだ」と、無力感のようなものを覚えるかもしれませんね。

・カウンセラー（セラピスト）が無力であるならば、相談による問題解決はクライアントの力に懸かってきます。と、いうよりむしろ、カウンセラーが無力であればあるほど、クライアントは本来有している自己の力に気付く、それを活用しようとする...

と考えた方が良くかもしれません。

・困っている人には必ず，そして絶えず，ワンダウな立場をとらされるようなパターンが固定しています。そこで，カウンセラーが「ワンダウン」するなら，クライアントは「ワンアップ」な立場に立つことができ，安心してカウンセラーのかかわりを受け入れ，解決への努力をするようになります。

・では，どうすれば「ワンダウン・ポジション」ができるのでしょうか？ 少し古いドラマ（映画）ですが，「刑事コロンボ」を思い出してください。彼は常に被疑者に対して，「ちょっと，まだ1つわからないことがあるのですが……。教えてもらえますか？」のように臨み，自発的な告白へと導きます。普通の刑事ドラマが，犯人を恫喝して追い込むスタイルだったので，コロンボのワンダウなスタイルは印象的でした。

・このように，カウンセラーが「Not Knowing」＝「私は（あなたの問題について）何も知らない」的な姿勢をとれば，クライアントは「教えてあげる」と重要なことを話せたり，自分が問題解決の方法を「知っている」ことに気付いたりする

のです。

・相談がうまくいってクライアントが問題を解決し，お礼を言われた際にも，ワンダウンを忘れないこと。自然な尊敬の念を持って「成功要因は私ではなく，あなた自身ですね」のように伝えることで，相手はエンパワメントされます。

・学校で教師が児童・生徒を相手に相談活動を行う場合は，普段のポジションと逆転するので，難しいですね。だからこそ，自然に「ワンダウン」ができるようになれば，より効果的かもしれませんよ。

< 秋田県支部理事 浅沼 知一 >



編・集・後・記

秋田県支部が誕生して1年を迎えようとしている。私たちの願いは教育カウンセリングの芽が成長して，秋田県の子どもたちが楽しくて，生き生きとした学校生活を送れるようになることにある。幸いなことに多くの人たちが私たちの活動に関心を寄せてくれ，仲間の輪は広がってきた。志を同じくする人たちが集まれば，また，新たな展開が生まれる。活動は変化を生み，変化がまた活動を生む。「日本教育カウンセラー協会秋田県支部」の名称も変わる。来年度も，根っこを一つにした仲間が集い，新たな展開を模索していくことになるだろう。（Y）